

腸内細菌の研究（エコチル調査追加調査）に

ご参加いただいている皆さまへ

いつもエコチル調査にご協力いただき、ありがとうございます。

皆さまにお子さんの便をご提供いただいている追加調査では、腸内細菌とさまざまな健康状態との関わりを調べる研究を行っています。

このたび、この研究を次のように発展させることになりました。皆さんから提供していただいた便は、これまで以上に、さまざまな病気の予防や治療につながる研究に役立てられていきます。

1) 腸内に住む細菌以外の微生物も調べます

腸の中には、細菌のほかにも、さまざまな微生物（ウイルスや古細菌など）がたくさん住んでいて、それらの微生物も健康に関わっていると考えられます。最近の技術の進歩により、細菌以外の微生物も調べることができるようになってきました。これからの研究では、腸内細菌だけでなく、腸の中のさまざまな微生物と健康との関わりについて調べます。

2) 提供していただいた便を他の研究に活用します

腸内細菌はさまざまな病気に関わっています。子どもの便は、病気の原因を調べるのに役立つ、とても貴重な試料です。そこで、皆さんから提供していただいた便を次の研究にも役立てさせていただきます。

A. 川崎病の研究

川崎病は乳幼児期に発症する病気で、その原因はまだわかっていません。この研究では、「エコチル調査に参加していない川崎病の子どもたち」の便と、「川崎病でない子どもたち」の便（皆さんから提供していただいた便）を使って、腸の中の微生物にどのような違いがあるかを調べ、川崎病の予防や治療に役立てていきます。

この研究は、次の研究機関で行います。

- ・横浜市立大学（研究責任者：伊藤 秀一 教授）

エコチル調査神奈川ユニットセンターとしてエコチル調査にも関わっている研究機関です。

- ・理化学研究所（研究責任者：大野 博司・須田 互 チームディレクター）

腸内細菌の研究（エコチル調査追加調査）で、便の解析を行っている研究機関です。

B. 大腸がんの研究

腸の中には大腸がんに関係する細菌がいることが最近わかってきました。これらの細菌が子どもの腸にどれくらいいるかはまだわかっていません。この研究では、将来の大腸がんに関係すると考えられている細菌の量を測定し、環境や生活習慣との関係を調べ、大腸がんの予防や治療に役立てていきます。

この研究は、次の研究機関で行います。

東京大学医科学研究所（研究責任者：柴田 龍弘 教授）

（裏面に続きます）

これらの研究は、皆さんから提供していただいた便を利用して行いますので、皆さんのご負担が増えることはありません。

横浜市立大学、理化学研究所、東京大学医科学研究所では、それぞれの大学・研究所の倫理委員会の承認を受けてから、個人を特定できないようにしたデータを利用します。これらの研究所に皆さまの個人情報を提供することはありません。

これらの調査に、皆様から提供いただいたデータを利用することについて、ご了承いただけない場合はエコチル調査ユニットセンターにご連絡ください。その場合でも、みなさまが不利益を受けることはありません。

また、研究に関するご質問がありましたら、お気軽にお問合せください。ご希望があれば研究計画書をご覧くださいことができます。

この研究の課題名

- ・エコチル調査追加調査の課題名

「アレルギー疾患・アレルゲン感作と腸内細菌叢の関連に関する研究」

- ・大学、共同研究機関での研究課題名（研究課題名が変わりました）

（新）「腸内微生物と健康との関連に関する研究（エコチル調査追加調査）」

（旧）「アレルギー疾患・アレルゲン感作と腸内細菌叢の関連に関する研究

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）追加調査として」

2026年x月xx日

千葉ユニットセンター研究代表者： 千葉大学予防医学センター長 教授
櫻井 健一

<問い合わせ先>

千葉大学予防医学センター 山本 緑

TEL： 043-290-3920

Eメール：ec-cpms@office.chiba-u.jp